

福岡県立図書館 図書館評価（平成24年度）

図書館法第7条の3に基づき、図書館運営の改善を図るため平成24年度の運営状況についての評価を実施し、その結果に基づき運営の改善を図ってまいります。（資料1）

1 図書館評価（平成24年度）の概要

① 評価項目

評価項目一覧表のとおり、基本方針の5つの機能

- 1 資料収集保存センターとしての機能
- 2 資料情報センターとしての機能
- 3 郷土資料センターとしての機能
- 4 市町村立図書館の援助センターとしての機能
- 5 子どもの読書活動推進拠点としての機能

の下に38個の評価項目を定め、各評価項目毎に数値目標を定めました。（資料2）

② 評価方法

各評価項目毎に達成率（24年度実績／24年度目標×100）を算定し、以下のとおり評価しました。

達成率	評価
95%以上	ほぼ達成できた（◎）
90%以上 95%未満	あとわずかで達成（○）
90%未満	達成できなかった（△）

・各機能毎の評価項目数に占める「ほぼ達成できた」以上の評価項目数の割合を出し、3分の2以上あればその機能は達成とします。

・各機能毎の達成状況に占める「達成」とした機能数の割合を出し、3分の2以上あれば図書館全体として達成とします。

2 図書館評価（平成24年度）の結果

① 達成状況

各機能毎及び図書館全体の達成状況は、次のとおりです。（括弧書きは、前年度の状況）

機能	評価項目数	◎以上の数	達成状況
1 資料収集保存センターとしての機能	5 (5)	5 (4)	達成 (達成)
2 資料情報センターとしての機能	13 (13)	10 (10)	達成 (達成)
3 郷土資料センターとしての機能	7 (6)	6 (4)	達成 (達成)
4 市町村立図書館の援助センターとしての機能	5 (4)	3 (4)	未達成 (達成)
5 子どもの読書活動推進拠点としての機能	8 (9)	5 (4)	未達成 (未達成)
図書館全体	38 (37)	29 (26)	未達成 (達成)

※ 評価項目毎に見ると、◎以上の数は3分の2以上ありますが、機能毎に見ると「達成」の割合は3分の2に達していないので、図書館全体としては目標に達していないと評価しています。

② 全体評価

この図書館評価は、平成24年度の当館の5つの機能、(ア)資料収集保存センター機能、(イ)資料情報センター機能、(ウ)郷土資料センター機能、(エ)市町村立図書館の援助センター機能、(オ)子どもの読書活動推進拠点機能についてそれぞれ評価し、各機能の達成状況を総括し図書館全体の評価を行ったものです。

図書館全体としては、5つの機能のうち、3つの機能については「達成」したものの、2つの機能については「未達成」であったことから、**図書館全体としては「未達成」であったと評価しました。**

個別の評価項目で見ると、38個の評価項目中、29個は「ほぼ達成できた」と考えていますが、平成24年度は全体の評価単位は機能毎にすると改めたため、評価は「未達成」となります。

平成23年度は、全評価項目37項目中「ほぼ達成できた」以上が26項目であり、個別の評価項目の過半を超えていたので図書館全体として「達成した」と評価していました。また機能毎の達成状況でも「未達成」は1機能でした。

平成24年度は個別の評価項目で見ると「ほぼ達成できた」項目は増えていますが、機能として「未達成」と評価したものが2に増えたことから、このような評価となっています。今後は「未達成」と評価された機能について取組を強化したいと考えています。

なお、機能別評価の概要は、次のとおりとなっています。

(ア)資料収集保存センター機能については、5項目すべて「ほぼ達成できた」と考えており、**当機能の目標は達成しました。**平成23年度は、評価項目5項目中「ほぼ達成できた」以上が4項目であったので、当機能に関しては、より機能向上が図られたと考えています。

特に、録音図書収集タイトル数については、前年度に引き続きカセットテープ版からデジターへの移行（デジタル化）を大幅に行ったため、目標数を大きく超えています。また、利用者の要望を踏まえた選書を迅速に行い、資料の質や量についての利用者の方々の満足を得ることができたと考えています。

(イ)資料情報センター機能については、13項目中、10項目で「ほぼ達成できた」と考えており、**当機能の目標は達成しました。**平成23年度は、評価項目13項目中「ほぼ達成できた」以上が10項目であったので、当機能に関しては、同じ水準を維持していると考えています。

前年と比べると、貸出冊数、レファレンス、Web OPAC 利用回数の伸びが特に大きくなっています。なお、レファレンスのうち重点サービスとしているビジネス支援、行政支援はレファレンス全体の伸び率には及んでいません

が、目標は達成したと考えています。

今後も、課題解決型図書館として、更なるサービスの拡充に努めるとともに、県民ニーズを的確に捉え、新たな図書館利用者を得るための取り組みを進めることが必要と考えています。

また、録音図書については、関係機関との連携や広報に努め、利用者の増加を図っていきます。

(ウ)郷土資料センター機能については、7項目中、6項目で「ほぼ達成できた」と考えており、**当機能の目標は達成しました**。平成23年度は、評価項目6項目中「ほぼ達成できた」以上が4項目であったので、当機能に関しては、より機能向上が図られたと考えています。

資料受入点数及びHPアクセス件数は、各々20%を超える数値を達成したところですが、特にHPアクセスの増加は、収蔵資料のHPでの公開等デジタル化に努め、郷土資(史)料利用の利便性を高めた結果ではないかと考えられます。

(エ)市町村立図書館の援助センター機能については、5項目中、3項目では「ほぼ達成できた」と考えていますが、他の2項目が達成できておらず、**当機能の目標達成までもう少しでした**。平成23年度は、評価項目4項目中「ほぼ達成できた」以上が4項目であったので、当機能に関しては、機能の維持ができていないと結果となっています。

達成割合が低かったレファレンス件数(市町村立図書館)については、レファレンス事例や図書館に関する情報が、国立国会図書館のホームページ等で検索できることが一因と考えられます。また、職員研修会満足度、市町村支援満足度は、目標を達成できており、レファレンスの内容、方法についてはおおむね問題ないと考えています。

(オ)子どもの読書活動推進拠点機能については、8項目中、5項目では「ほぼ達成できた」と考えていますが、他の3項目が達成できておらず、**当機能の目標は達成までもう少しでした**。平成23年度は、評価項目9項目中「ほぼ達成できた」以上が4項目であったので、当機能に関しては、目標は達成していませんが、わずかながらでも機能向上が図られたと考えています。

昨年度、達成できなかった項目のうち、子ども図書館ホームページアクセス数、学校貸出セットの活用については、目標を達成しています。

資料受入点数は目標は達成できていませんが、購入額は前年度と同じ水準を維持するなかで、単価の高い図書を多めに購入したことによります。

入館者数、定例お話し会参加者数は、目標を達成できていませんが、いずれも昨年度実績は上回っているため、今後も参加者の要望に合わせた内容を加えていきます。

③ 機能別評価書

1 資料収集保存センターとしての機能に関する評価

評価項目	24年度目標	24年度実績	達成割合	評価
(1) 受入資料数	25,000 冊	25,208 冊	100%	◎
(2) 録音図書収集タイトル数	90 <small>タイトル</small>	126 <small>タイトル</small>	140%	◎
(3) 大活字資料（埼玉福祉会刊行分）購入率 （購入点数／出版点数）	100 %	100%	100%	◎
(4) 新着資料回転率 （新着資料貸出点数／新着資料貸出可能冊数）	2.85 回	2.71 回	95%	◎
(5) 資料の質や量についての利用者満足度 （子ども図書館を除く。）*アンケートによる	85 %	86 %	101%	◎
網掛項目：過去3か年平均より上の目標値を設定	合 計			5 / 5

*目標値は、過去3か年の平均を基準としている。

*達成割合は、小数点以下を切捨表示

*評価凡例：◎95%以上、○90%以上、△90%未満

評 価

- ・ 5項目すべて達成し、当機能の目標を達成した。

達 成 状 況

- ・ 受入資料数については書庫スペース確保の問題がある一方で、収集すべき資料を確実に収集することに努め当初の目標数に到達した。
- ・ 録音図書収集タイトル数については、前年度に引き続きカセットテープ版からデジターへの移行（デジタル化）を大幅に行ったため、目標数を大きく超えた。
- ・ 大活字資料（埼玉福祉会刊行分）購入については、について目標どおり全点（62冊）購入した。
- ・ 新着資料回転率については、新着図書の受入・整理の迅速化により、利用者への提供が早くなったが、昨年度の実績にはわずかに及ばなかった。
- ・ 利用者の要望を踏まえた選書を迅速に行い、資料の質や量についての利用者の方々の満足を得ることができた。

今 後 の 改 善 点

- ・ 当館にとって収集すべき資料とは何かを広範囲に渡って追求し、県立図書館としての蔵書構成を確実なものとするため、さらに受入・整理方法の点検を行い、迅速化・効率化及び利用拡大を目指す。
- ・ 録音図書に関しては、平成24年度より、デジター製作を基本とし、希望者にカセットテープ版を製作するという体制に移行している。そのため製作ボランティアの方々と、日常的に綿密な打ち合わせを行うことをさらに徹底する。

2 資料情報センターとしての機能に関する評価

評価項目	24年度目標	24年度実績	達成割合	評価
(1) 入館者数 (全体)	492,900 人	551,992 人	111%	◎
(2) 新規登録者数	5,400 人	4,896 人	90%	○
(3) 貸出点数 (子ども図書館、録音図書を除く)	279,500 冊	342,632 冊	122%	◎
(4) 貸出点数 (録音図書)	1,900 <small>タイトル</small>	1480 <small>タイトル</small>	77%	△
(5) レファレンス件数 (本館2階閲覧室)	22,700 件	35,757 件	157%	◎
(5-2 (内数)) ○重点サービス (ビジネス支援)	1,230 件	1,192 件	96%	◎
(5-3 (内数)) ○重点サービス (行政支援)	380 件	395 件	103%	◎
(6) 複写サービス件数 (本館第2閲覧室)	7430 件	6,041 件	81%	△
(7) 館内 OPAC 利用回数	206,600 件	215,026 件	104%	◎
(8) 福岡県立図書館ホームページアクセス件数	427400 件	438,023 件	102%	◎
(9) Web OPAC 利用回数	1055,000 件	1,415,330 件	134%	◎
(10) 県民対象講座満足度 (平均) *アンケートによる	97 %	98 %	101%	◎
(11) 目的の資料・情報が入手できたかの利用者満足度*アンケートによる	91 %	92 %	101%	◎
網掛項目：過去3か年平均より上の目標値を設定	合計			11 / 13

*目標値は、過去3か年の平均を基準としている。

*達成割合は、小数点以下を切捨表示

*評価凡例：◎95%以上、○90%以上、△90%未満

評価

13項目中、10項目で目標を達成した。このため、当機能の目標は達成した。

達成状況

- ・ 実績値では、前年と比べると、貸出冊数、レファレンス、Web OPAC 利用回数の伸びが特に大きかった。
- ・ 達成率では、入館者数が 111%、貸出冊数は 122%、レファレンス件数は 157%、行政支援は 103%、館内 OPAC 利用回数は 104%、ホームページアクセス件数は 102%、Web OPAC 利用回数は 134%、利用者満足度は 101%と、各々100%以上を示している。
- ・ 在架予約、遠隔地貸出返却サービスなどの浸透や、展示やリストの提供などによる利用を刺激する資料情報のきめ細かな提供が、利用者のニーズをとらえ利用を促進している。
- ・ 今年度は、音声訳ボランティア養成講座、読書週間事業読書講演会、郷土誌講座の3つの県民対象講座について集計を行ったが、満足度達成率は 101%でおおむね好評だった。
- ・ 新規登録者数は平成21年度から、録音図書貸出点数は平成23年度からマイナスの実績が続き、達成率は各々90%と77%で目標には届かなかった。複写件数はインターネットの普及等も影響し81%の達成率と大きく落ち込み、平成22年度から減少傾向が続いている。

今後の改善点

- ・ 遠隔地貸出返却サービスや、郵送登録サービスのPRに努め、利用者層の拡大に取り組む。
- ・ 録音図書については、関係機関との連携や広報に努め、利用者の増加を図る。
- ・ 複写は、機器の更新等で使いやすさの向上を図る。

3 郷土資料センターとしての機能に関する評価

評価項目	24年度目標	24年度実績	達成割合	評価
(1) 資料受入点数 (郷土資料)	1,410 冊	1,872 冊	132%	◎
(2) 入室者数 (郷土資料室)	30,400 人	31,762 人	104%	◎
(3) レファレンス件数 (郷土資料室)	6,010 件	5,462 件	90%	○
(4) コピー、マイクロフィルム複写件数 (郷土資料室)	3,940 件	3,924 件	99%	◎
(5) 資料特別利用の件数*新指標	60 件	70 件	116%	◎
(6) 郷土資料室ホームページアクセス件数	6,300 件	7,601 件	121%	◎
(7) 郷土(福岡県)資料の質や量についての利用者 満足度 *アンケートによる	96 %	95 %	98%	◎
網掛項目：過去3か年平均より上の目標値を設定	合計			6/7

*目標値は、過去3か年の平均を基準としている。

*達成割合は、小数点以下を切捨表示

*評価凡例：◎95%以上、○90%以上 △90%未満

評価

- 7項目中、6項目で目標を達成した。このため、当機能の目標は達成した。

達成状況

- 受入点数及びHPアクセス件数は、各々20%を超える数値を達成した。
- 特別利用件数、入室者数、複写件数及び「利用者満足度」は116%から99%の間の達成率であるが、複写件数は古文書を扱う福岡アーカイブ研究会などの団体が学習会場を当館以外とした事情が影響したと思われる。
- レファレンス件数達成率は90%であるが、日常カウンター業務での簡易レファレンスの記入漏れがあったと思われるので、実件数はこれより多かったと思われる。

今後の改善点

- 業務マニュアルの修正作業と並行し、レファレンスも含めた業務処理の確認・点検等の機能を、課内会議を中核とし充実する必要がある。
- 古文書の史(資)料数は増加しない中、近代以降も含めた既存資料の目録作成、ラミネート加工、コピー(紙焼き)作成、デジタル化に努め、郷土資(史)料利用の利便性を高める必要がある。

4 市町村立図書館活動の援助センターとしての機能に関する評価

評価項目	24年度目標	24年度実績	達成割合	評価
(1) 相互貸借冊数	19,050 冊	20,668 冊	108%	◎
(2) レファレンス件数 (市町村立図書館)	995 件	264 件	26%	△
(3) 職員研修会満足度 *アンケートによる	99 %	99 %	100%	◎
(4) 公共図書館等への職員派遣回数*新指標	140 回	125 回	89%	△
(5) 市町村支援満足度 *アンケートによる	99 %	98 %	98%	◎
網掛項目：過去3か年平均より上の目標値を設定	合 計			3/5

*目標値は、過去3か年の平均を基準としている。

*達成割合は、小数点以下を切捨表示

*評価凡例：◎95%以上、○90%以上、△90%未満

評 価

- 5項目中3つの目標の達成にとどまり、当機能の目標は達成までもう少しである。

達 成 状 況

- 相互貸借件数は、目標を達成できた。昨年度からの遠隔地サービスの定着に伴い、相互貸借の周知も進んだことが一因と考えられる。
- レファレンス件数(市町村立図書館)については、今年度から企画協力課で受けた市町村からのレファレンスもデータ入力したが目標を達成できなかった。レファレンス事例や図書館に関する情報が、国立国会図書館のホームページ等で検索できることが一因と考えられる。
なお、今年度から「福岡県公共図書館等概況」の調査項目に、問い合わせが多かった「有料広告の導入」を追加し、情報提供を行った。
- 県内公共図書館等への職員派遣等の回数は、今年度からの新指標であるが、目標を達成できなかった。講師派遣や図書館協議会等への出席回数は増加しているが、各地区で開催される研修会の日程が重複したため、参加回数が減ったこと等が原因と考えられる。
- 職員研修会満足度、市町村支援満足度は、目標を達成できた。県公共図書館等協議会の研修委員会や研修でのアンケート結果を踏まえ、市町村立図書館からの要望を把握するとともに、図書館界の最新情報にも留意して研修を実施しているため、高い満足度を得ている。

今 後 の 改 善 点

- 相互貸借冊数は、年々増加しているが、福岡県図書館情報ネットワークに横断検索未加入町村の加入を促すなど、相互貸借を円滑に行える条件整備が必要である。また、相互貸借利用の増加に対応できる搬送経費の確保も必要である。
- レファレンス件数(市町村立図書館)については、次年度は、よくある質問に対する回答例を作成するなどして、迅速な回答に努める。
- 県内公共図書館等への職員派遣回数は、市町村から出席要請がある会議や研修は日程調整を行い、計画的に出席するよう努める。
- 職員研修会、市町村支援は、引き続き市町村からの要望を把握して、研修内容の充実に努める。

5 子どもの読書活動推進拠点としての機能に関する評価

評価項目	24年度目標	24年度実績	達成割合	評価
(1) 資料受入点数 (子ども図書館)	3,760 冊	2,915 冊	77%	△
(2) レファレンス件数 (子ども図書館)	2,870 件	3,151 件	109%	◎
(3) 子ども図書館ホームページアクセス件数	20,020 件	20,865 件	104%	◎
(4) 入館者数 (子ども図書館)	90,790 人	83,050 人	91%	○
(5) 貸出点数 (子ども図書館)	84,520 冊	86,723 冊	102%	◎
(6) 学校貸出セットの活用	40 回	196 回	490%	◎
(7) 定例お話し会参加者数	2,990 人	2,698 人	90%	○
(8) 子ども図書館の資料の質や量についての利用者満足度 *アンケートによる	92%	93%	101%	◎
網掛項目：過去3か年平均より上の目標値を設定	合 計			5/8

*目標値は、過去3か年の平均を基準としている。

*達成割合は、小数点以下を切捨表示

*評価凡例：◎95%以上、○90%以上、△90%未満

評 価

- 8項目中5つの目標の達成にとどまり、当機能の目標は達成までもう少しである。

達 成 状 況

- 資料受入点数は、目標の77%の達成率で目標は達成できなかった。こども情報ルームの質の向上を図るため、単価の高い調べ学習用図書を多めに受け入れたことによる。
- レファレンス件数は、目標を達成できた。
- 子ども図書館ホームページアクセス件数は、目標を達成できた。これは、関連リンク集の作成や展示等イベント情報の更新を定期的に行ったためと思われる。
- 入館者数は、目標の91%の達成率で目標は達成できなかったが、昨年度実績(80,702人)を上回っている。
- 貸出冊数は、目標を達成できた。
- 学校貸出図書セットの活用は目標を大幅に上回り、達成できた。学校への直接無料配送及び貸出期間を学期毎に改善したことが利用の増加につながった。
- 定例お話し会参加者数は、目標の85%の達成率で目標を達成できなかったが、昨年度実績(2,485人)を上回っている。資料の質や量についての利用者満足度は、目標を達成できた。新刊図書の配架を迅速に行ったことが、利用者満足度の向上につながったと思われる。

今 後 の 改 善 点

- 次年度は、資料受入点数の増加に努める。
- 学校貸出図書セットについては、学校からの要望を取り入れたセットを作成し、内容の充実を図る。
- 入館者数及び定例お話し会参加者数は、参加者の要望に合わせた内容を検討し、お話し会の参加奨励に努める。

資料 1

福岡県立図書館の運営状況に関する評価（平成24年度）について

1 根拠となる法令等

図書館法第7条の3（平成20年6月11日公布施行）

図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

*参考

図書館の設置及び運営上の望ましい基準

（平成24年12月19日文科科学省告示第172号）

第2 公立図書館

一 市町村立図書館

1 管理運営

（一）基本的運営方針及び事業計画

- 1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

（二）運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の2の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。
- 2 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会（法第十四条第一項に規定する図書館協議会をいう。以下同じ。）の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- 4 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネット

ワーク（以下「インターネット等」という。）をはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

（以下、省略）

二 都道府県立図書館

6 準用

第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用する。

2 評価項目一覧表について

県立図書館の5つの機能ごとに評価項目、設定理由、24年度（数値）目標等を定める。

(1) 数値目標の設定について

基本的に21～23年度3か年実績の平均値と同程度とし、24年度に重点的に取り組む事項については、原則として対平均値の10%増の範囲で目標設定を行う。

(2) 利用者への周知

評価項目一覧表は、ホームページで公表する。

3 評価基準について

目標達成率を基準にした「評価基準」を定め、客観的な評価を行う。

福岡県立図書館評価基準

達成率	評価
95%以上	ほぼ達成できた（◎）
90%以上 95%未満	あとわずかで達成（○）
90%未満	達成できなかった（△）

※達成率＝24年度実績／24年度目標×100

4 24年度評価方法及び次年度への反映

- ① 各評価項目毎に達成率を出し、評価基準により評価する。
- ② 各機能毎の評価項目数に占める「ほぼ達成できた」以上の評価項目数の割合を出し、3分の2以上あればその機能は達成とする。
- ③ 各機能毎の達成状況に占める「達成」とした機能数の割合を出し、3分の2以上あれば図書館全体として達成とする。
- ④ 評価をもとに図書館として改善すべき点を確認し、次年度に生かす。
- ⑤ 評価結果は住民に公表する。

資料2 福岡県立図書館 評価項目一覧 (平成24年度)

評価項目	設定理由	数値目標の設定	過去3年平均 (H21~23)	24年度目標	24年度末(実績)	前年数値 からの 伸び率	H24 目標 達成率	H24 結果
1 資料収集保存センターとしての機能に関する評価								
(1) 受入資料数	計画的に収集するため	前年度実績と同程度	26,193	25,000 冊	25,208 冊	100 %	100 %	◎
(2) 録音図書収集タイトル数	録音資料の充実度を測る指標として設定する	過去3年平均と同程度	86	90 ^{タイトル}	126 ^{タイトル}	83 %	140 %	◎
(3) 大活字資料購入率(=購入点数/出版点数)	視覚障がい者・高齢者サービスの指標として	全点購入	100	100 %	100 %	100 %	100 %	◎
(4) 新着資料回転率 (=新着資料貸出点数/新着資料貸出可能数)	資料の有効活用度を測る指標として設定する	前年度実績と同程度 (過去3年平均の32%増相当)	2.15	2.85 回	2.71 回	95 %	95 %	◎
(5) 資料の質や量についての利用者満足度 (子ども図書館を除く。)*アンケートによる	利用者の満足度を測る指標として設定する	前年度実績と同程度 (過去3年平均の5%増相当)	81	85 %	86 %	101 %	101 %	◎
						◎以上の数 5 / 5		
2 資料情報センターとしての機能に関する評価								
(1) 入館者数(全体)	図書館がより多くの県民に利用されているかの指標となる	過去3年平均の1%増	487,979	492,900 人	551,992 人	110 %	111 %	◎
(2) 新規登録者数	図書館がより多くの県民に利用されているかの指標となる	過去3年平均の1%増	5,343	5,400 人	4,896 人	98 %	90 %	○
(3) 貸出点数(子ども図書館、録音図書を除く。)	図書館利用に関する指標となる	過去3年平均の1%増	276,737	279,500 冊	342,632 冊	104 %	122 %	◎
(4) 貸出点数(録音図書)	障がい者サービス指標として	過去3年平均と同程度	1,855	1,900 ^{タイトル}	1,480 ^{タイトル}	87 %	77 %	△
(5) レファレンス件数(本館2階閲覧室)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均と同程度	22,702	22,700 件	35,757 件	131 %	157 %	◎
(5-2(内数)) ○重点サービス(ビジネス支援)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均の5%増	1,173	1,230 件	1,192 件	71 %	96 %	◎
(5-3(内数)) ○重点サービス(行政支援)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均の5%増	366	380 件	395 件	139 %	103 %	◎
(6) 複写サービス件数(本館第2閲覧室)	所蔵資料が利用者にとって有効であったことを示す指標となるため	過去3年平均の1%増	7,361	7,430 件	6,041 件	89 %	81 %	△
(7) 館内OPAC利用回数	来館者自らによる所蔵資料検索利用状況を図る指標として設定する	過去3年平均の1%増	204,556	206,600 件	215,026 件	102 %	104 %	◎
(8) 福岡県立図書館ホームページアクセス件数	ホームページの充実度を見る指標となる	前年度実績と同程度 (過去3年平均の1%増相当)	423,420	427,400 件	438,023 件	102 %	102 %	◎
(9) Web OPAC利用回数	ホームページからの所蔵資料検索利用状況を図る指標として設定する	前年度実績と同程度 (過去3年平均の22%増相当)	859,877	1,055,000 件	1,415,330 件	134 %	134 %	◎
(10) 県民対象講座満足度(平均) *アンケートによる	県民対象講座参加者の満足度を測る指標として設定する	過去3年平均と同率	97	97 %	98 %	101 %	101 %	◎
(11) 目的の資料・情報が入りやすさの利用者満足度 *アンケートによる	利用者の満足度を測る指標として設定する	過去3年平均と同率	91	91 %	92 %	98 %	101 %	◎
						◎以上の数 10 / 13		

評価項目	設定理由	数値目標の設定	過去3年平均 (H21~23)	24年度目標	24年度末(実績)	前年数値 からの 伸び率	H24 目標 達成率	H24結果
3 郷土資料センターとしての機能に関する評価								
(1)資料受入点数(郷土資料)	郷土資料を計画的に収集するため	過去3年平均と同程度	1,408	1,410 冊	1,872 冊	170 %	132 %	◎
(2)入館者数(郷土資料室)	郷土資料室の利用に関する指標として	年度中途の実績から年間を推計 (計測器の設置場所変更による)	—	30,400 人	31,762 人	#VALUE! %	104 %	◎
(3)レファレンス件数(郷土資料室)	郷土資料に関するレファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均と同程度	6,011	6,010 件	5,462 件	77 %	90 %	○
(4)複写サービス件数(郷土資料室)	所蔵資料が利用者にとって有効であったことを示す指標となるため	過去3年平均の2%増	3,862	3,940 件	3,924 件	96 %	99 %	◎
(5)資料特別利用の件数 *新指標(H24~)	所蔵資料の有用性の指標となる (資料の複製、資料掲載、放映、展示等への利用)	過去3年平均と同程度	58	60 件	70 件	104 %	116 %	◎
(6)郷土資料室ホームページアクセス件数	ホームページの充実度を見る指標となる	前年度実績と同程度	6,490	6,300 件	7,661 件	122 %	121 %	◎
(7)郷土(福岡県)資料の質や量についての利用者満足度 *アンケートによる	利用者の満足度を測る指標として設定する	過去3年平均の1%増	95	96 %	95 %	100 %	98 %	◎
							◎以上の数	6 / 7
4 市町村立図書館活動の援助センターとしての機能に関する評価								
(1)相互貸借冊数(貸出+借受)	相互利用の協力活動の指標となる	過去3年平均の5%増	18,138	19,050 冊	20,668 冊	102 %	108 %	◎
(2)レファレンス件数(市町村立図書館)	市町村からのレファレンスを受け支援しているため	過去3年平均と同程度	994	995 件	264 件	25 %	26 %	△
(3)職員研修会満足度*アンケートによる。	市町村立図書館等職員の資質・能力向上の指標となる	過去3年平均と同率	99	99 %	99 %	99 %	100 %	◎
(4)県内公共図書館等への職員派遣回数 *新指標(H24~)	市町村支援の指標となる	前年実績と同程度	—	140 回	125 回	89 %	89 %	△
(5)市町村支援満足度*アンケートによる	市町村支援の指標となる	過去3年平均と同率	99	99 %	98 %	98 %	98 %	◎
							◎以上の数	3 / 5
5 子どもの読書活動推進拠点としての機能に関する評価								
(1)資料受入点数(子ども図書館)	子ども資料を計画的に収集するため	過去3年平均と同程度	3,759	3,760 冊	2,915 冊	88 %	77 %	△
(2)レファレンス件数(子ども図書館)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均と同程度	2,865	2,870 件	3,151 件	112 %	109 %	◎
(3)ホームページアクセス件数(子ども図書館)	ホームページの充実度を見る指標となる	過去3年平均と同程度	20,016	20,020 件	20,865 件	107 %	104 %	◎
(4)入館者数(子ども図書館)	子ども図書館の利用に関する指標として	過去3年平均と同程度	90,787	90,790 人	83,050 人	102 %	91 %	○
(5)貸出点数(子ども図書館)	子ども図書館の利用に関する指標として	過去3年平均と同程度	84,517	84,520 冊	86,723 冊	91 %	102 %	◎
(6)学校貸出セットの活用	学校との連携・市町村支援の効果を測る指標として設定する	過去3年平均の5%増	37	40 回	196 回	725 %	490 %	◎
(7)定例お話し会参加者数	子ども図書館の利用に関する指標として	過去3年平均と同程度	2,987	2,990 人	2,698 人	108 %	90 %	○
(8)子ども図書館の資料の質や量についての利用者満足度 *アンケートによる	利用者の満足度を測る指標として設定する	過去3年平均の2%増	90	92 %	93 %	102 %	101 %	◎
							◎以上の数	5 / 8
							◎以上の数	29 / 38
合計								

注

- 重点的に取り組む事項は数値目標の設定欄を網掛け表示している。
- H24結果(評価)は、達成率で次のように判定している。(95%以上達成→ほぼ達成できた(◎)、90%以上95%未満→あとわずかで達成(○)、90%未満→達成できなかった(△))
- 2-(6)及び3-(4)の指標は、従前の「コピー・マイクロフィルム複写枚数」から、利用実績をより反映する指標として「複写サービス件数」に改めた。
- 2-(10)県民対象講座満足度の24年度の対象講座は①音声訳(録音図書製作)ボランティア養成講座、②読書週間事業読書講演会、③郷土史講座の3講座とする。
- 4-(4)県内公共図書館等への出張回数は、講師派遣依頼に基づくもの、協議会等への委員としての出席、会議、調査等の延べ回数。